



短い中に変化に富んだ楽しい沢

## 谷川 大ベタテ沢

煤孫

【日時】 2010年9月5(日)

【メンバー】 L煤孫、中村、大田原、金沢

前夜発日帰りで行けるメンバーを募集して谷川に行くことにした。後に「珍しいパーティ構成」と言われた。大滝をどう登ろうかずっと悩んでいたが、大田原さんの参戦で大分気持ちが楽になった。

駐車場は10台とエアリアにあったがそんなに広くなかった。少し手前にも止められるスペースがあったのでそこに車を置いた。ここまで含めて10台か。それとも工事中だったので駐車スペースが減ったのか。

林道終点から入渓する。大田原さんから谷川新道を行って藪をこいでいる方が遅くなると聞いたので、谷川新道は初めから探さなかった。藪をこいでいるより沢を歩いた方が楽しい。入渓点に堰堤があったが、魚用？に隙間が開いていて苦労しないで通過することができた。

右から入る顕著な支沢の2本目が大ベタテ沢だった。貧相な出合で上にスラブ滝が見えてこれかと思ったが、時間的に早過ぎると思い、通過してしまった。魚止滝を過ぎて最初の右から入る支沢に入ったが、これが間違いだった。苔むした緑色の沢で、すぐに水が涸れてしまった。いくらなんでもおかしいと思い、対岸の地形を確認して上に行き過ぎた事に気づいた。魚止滝はひとつ下の滝だったのかもしれない。

大ベタテ沢の出合に戻る。約90分のロスだった。この時点での下山予定時刻は16:30。まだまだ大丈夫だと判断して入渓する。

今度は記録どおりの風景が広がる。しばらくゴーロが続いた後、ナメ状の小滝が連続し、8m3段滝の途中で二俣があった。水量の少ない右俣に入る。

しばらくして40m5段滝が始まる。下から全貌は見えない。1段目は登れないので右から巻く。2段目も登れないので右から巻く。3段目は空身なら登れたかもしれないが、大田原さんが腕がパンプしたと諦めたので、みんな諦めて右から巻いた。4段目は簡単に直登する。5段目はどれだか分からなかった。これで前半のハイライト終了。しばらくして現れる8m2段滝は1段目を直登。2段目も頑張れば登れたかもしれないが、左から巻いた。そして30m3段スラブ滝(大滝)が現れた。

下まで行って大滝を見上げる。水量は少ない。ホールドは細かそうだが、岩が乾いていてフリクションが効きそう。スラブなのでハーケンは打てそうにないが、左の灌木から中間支点は取れそう。

大田原さんにリードをお願いした。大田原さんは慎重に登っていった。ハーケンを打てる場所はなかったが、左の灌木から中間支点が取れた。ザイルは50mを持っていった

のが正解だった。40mくらいは使っただろう。30mだったら足りなかった。

2番手以降はザイルを固定してアッセンダーで登ったが、スラブに慣れていなかった金沢君は大分時間がかかった。後で聞いたところ大分怖い思いをしたようだ。新人は確保した方が良かったかもしれない。

大滝を登ってから適当なところで休憩しようとしたが、適当な場所がなくて奥の二俣まで行ってしまった。ここで休憩。奥の二俣を左に入る。水はもうチョロチョロになる。忠実に沢型を詰めるが最後は藪漕ぎになった。

稜線に出て休憩してから下山する。暑くて熱中症気味になった。曇っていたのでたすかった。駐車場にはほぼ予定通りに到着した。

### 【大滝について】

大ベタテ沢を計画した時から、大滝をどう登ろうか悩んだ。記録を調べたところ、「難しくないがホールドが細かい。中間支点が取れないので高度感があって怖い」というのが最大公約数だった。事前に得た情報と、行ってみでの感想が大分違った。

- ハーケンが打てないのは本当だったが、左の灌木から中間支点を取ることができた。
- ホールドが細かいのは本当だったがフリクションが効いた。特にアクアステレスはよく効いた。
- 30mザイルでは足りない。40mか、できれば50mを持っていくと良い。



左:40m5段滝の1段目 右:30m3段スラブ滝

【グレード】大ベタテ沢 2級

【行程】駐車場(7:30)～林道終点、入溪(7:45)～間違った沢の出合(8:30)～大ベタテ沢出合(10:05-15)～二俣(10:30)～40m5段滝の上(11:15-25)～30m3段スラブ滝(11:45-12:45)～奥の二俣(13:15-25)～稜線(14:10-20)～駐車場(15:35)

【地図】茂倉